

第 10 章 鉦 害

第 10 章 鉱 害

1 概要

本市の石炭産業は、江戸時代末期、片寄平蔵らによって採掘が開始されて以来、最盛期の昭和 26 年には、83 炭鉱、2 万 3 千人の鉱員を擁し、年産 300 万トン前後の採炭量を誇っていました。

しかし、石油エネルギーの普及により衰退の一途をたどり、昭和 51 年 9 月、常磐炭礦(株)西部礦業所の閉山により終わりを告げました。

本市では、このように広く石炭の採掘が行われたため、浅い坑道の崩落によって陥没する、いわゆる浅所陥没の鉱害が毎年発生しており、国県等の関係機関と連携して復旧工事を実施しています。



2 浅所陥没復旧工事

浅所陥没復旧工事の年度別実施状況及び平成 27 年度に実施した浅所陥没復旧工事の施工状況は、次のとおりです。

表 10-2-1 浅所陥没復旧工事の年度別実施状況

年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
箇所数	7	2	5	4	3	80	9	9	7	4
工事業費 (千円)	4,901	665	2,197	1,150	3,957	23,337	4,775	7,970	5,564	2,185

表 10-2-2 平成 27 年度 浅所陥没復旧工事

(単位:千円)

No.	所在地	被害箇所	主な内容	事業費
1	好間町北好間字堂田(1箇所)	宅地	土工	357
2	川部町大平(1箇所)	道路	土工	532
3	田人町旅人字上平石(1箇所)	農地	土工	875
4	勿来町白米広町(1箇所)	農地	土工	421